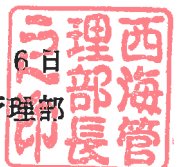


2017年度事業報告書

社会福祉法人 福医会

平成30年6月6日
本部・管理部



法人本部・管理部 29年度事業報告

1. 運営事業

第1種社会福祉事業

- 特別養護老人ホームさいかい
- 養護老人ホームさいかい

第2種社会福祉事業

- 短期入所生活介護さいかい
- デイケア（通所リハビリテーション）さいかい
 - ・ 訪問リハビリテーション
- デイサービス
- 訪問介護さいかい
- 居宅介護支援さいかい
- 無料低額診療事業の実施に拠る第2種社会福祉事業
 - ・ 介護療養型老人保健施設さいかい
 - ・ さいかいクリニック

2. 事業所在地

- ① 長崎県西海市大島町1876番地59（通称：西海医療福祉センター）
- ② 長崎県西海市崎戸町蠣浦郷2060番地6（養護老人ホームさいかい）
- ③ 長崎県西海市西彼町小迎郷2517番地3（デイサービスさいかい）
- ③ 福岡県福岡市早良区百道浜1丁目3番70号-3505

3. 組織

(1) 2017年度法人組織図編成



(2) 2017年度 役員状況

評議員 定員 7名

役職名	氏名	住所	備考
評議員	前田勝範	長崎県西海市	
評議員	品田英昭	長崎県西海市	
評議員	村山一正	長崎県西海市	
評議員	力武征敏	長崎県西海市	
評議員	山口増治	長崎県西海市	
評議員	畝本一馬	長崎県西海市	
評議員	原田榮次	長崎県西海市	

理事 定員6名 監事2名

役職名	氏名	住所	備考
理事長	馬場裕基	東京都港区	
専務常任理事	山田直樹	福岡県大野城市	
常務常任理事	徳永 翔	長崎県西海市	
上席理事	徳永裕之	長崎県西海市	
業務執行理事	川添大輔	長崎県西海市	
業務執行理事	中尾祐二	長崎県西海市	
会計監事	野口末裕	長崎県佐世保市	
業務監事	宮津柳二郎	長崎県西海市	

(3) 理事会・評議会開催状況

- ・平成28年05月24日 理事会 出席者 7名 欠席者 1名
- ・平成29年06月15日 評議員会 出席者 7名
- ・平成29年06月21日 理事会 出席者 8名
- ・平成29年09月27日 理事会 出席者 7名 欠席者 1名
- ・平成29年09月28日 評議員会 出席者 7名
- ・平成30年02月14日 理事会 出席者 8名
- ・平成30年02月28日 評議員会 出席者 6名 欠席者 1名
- ・平成30年03月14日 理事会 出席者 7名
- ・平成30年03月28日 評議員会 出席者 7名

(4) 監査・調査状況

- 平成29年05月18日 法人内部監査（会計・経理・決算監査／業務監査）
- 平成29年08月22日 法人苦情解決委員会（年間総括）
- 平成29年10月05日 長崎県指導監査 特養さいかい
- 平成29年10月17日 長崎県指導監査 養護さいかい
- 平成29年12月20日 長崎県県央保健所給食施設監査

(5) 法人懇親会

日 時 平成 29 年 11 月 10 日 19 : 00 ~

場 所 ホテル日航ハウステンボス

出席者 役員・評議員 14 名 職員 67 名

5. 総括

(1) 人ざい確保と職員満足度の向上並びに資質向上

1 年を通して、職員の確保に苦慮した年であった。この影響は現場のみならず、中間管理職の必要数まで影響が出ており、特定の職員に仕事が偏りがちな結果ともなった。

金銭的報酬の改善と賞与比率の向上を図るために、まず、給与規程改定を年度当初に実施した。併せて、正職登用要件を緩和し次年度以降の職員確保への職員資質の向上と就業成果を昇格昇給に反映させることを目的とした人事考課導入への取組を当年度より本格的に実施。人事考課を経験した職員が殆どいないため、人事考課の仕組み・理解にコンサルを中心に研修会を段階的に実施した。次年度よりは仮運用として、具体的な取組を行う。求人については、今までの求職者のニーズが高かった職員世帯用社宅を当年度初めて整備。当法人の地理的不利を埋めるべく、今後も特に単身者用社宅の整備は必要と考えるが、こちらは事業実績を見ながら法人財務に大きな負担がないように進めていきたい。人ざい確保と職員満足度の向上並びに資質向上改善にむけた方策は、早急な効果を求めるよりも、職員の実感・理解が浸透するまで時間を要するものとも考えられ、次年度以降も根気よく継続していく。

(2) 情報システムの活用と業務効率化

業務効率化については、年度末より給与業務については勤怠集計後の業務部分、労務業務については、各種申請や助成金申請等の業務を外部委託とし、一部職員に偏重し業務的に滞留が発生していた部分の解消に向けた取組を始めた。その中で 2 名の職員の退職により、職員のシステム理解は一部ソフトを除き一からの状況となることになり、次年度以降の課題となっている。

(3) 法人経営力 財務基盤の強化

2017 年度の当期活動増減差額は 17,154 千円、当期資金収支差額は 83,331 千円と前年度に続き黒字となり、当期末支払資金残高も 100,000 千円を超える結果となり財務的に改善傾向は継続してきた。その中で職員確保が法人にとり重要課題の一つとなった現在、職員満足度向上及び職員定着に向けた方策として、法定外福利施策の充実や正職要件緩和による正職枠の増加により、ある程度の人件費率の増幅は容認しなければならない。しかし、財務基盤の安定性からの視点で見れば急激な人件費率の増幅は財務基盤の弱体化を招く可能性もあるため、バランスよく実施していくことが次年度の要点となる。

また、労働分配率についても、採用枠の増加により職員数の増員が図れれば職員の労働負担の軽減が図れる一方、事業収入が計画割れを起こすことがあれば、こちらも増幅することが考えられ、例年にも増して各事業、収入計画に沿った事業運営が求められる。

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 老人福祉課

養護老人ホーム さいかい

2017年度 事業報告書

2018年4月16日
作成責任者：老人福祉課 課長 前平義昭



養護老人ホームさいかい 2017年(4月から3月)における事業実績(計画対比)

	定員数	実績人数	稼働率	計画人数	計画達成率	計画額	実績額
4月	50人	39人	78%	38人	101.7%	6,688,000円	6,805,748円
5月	50人	39人	78%	39人	99.4%	6,825,000円	6,788,695円
6月	50人	44人	89%	38人	116.2%	6,650,000円	7,729,955円
7月	50人	44人	89%	38人	114.2%	6,650,000円	7,597,934円
8月	50人	41人	82%	40人	100.6%	7,000,000円	7,048,191円
9月	50人	43人	86%	39人	109.5%	6,825,000円	7,457,562円
10月	50人	41人	82%	38人	105.8%	6,650,000円	7,038,187円
11月	50人	41人	82%	40人	100.3%	7,082,000円	7,110,147円
12月	50人	41人	82%	39人	105.3%	7,106,000円	7,484,818円
1月	50人	41人	82%	38人	106.4%	6,728,000円	7,160,288円
2月	50人	41人	82%	40人	101.3%	7,082,000円	7,180,634円
3月	50人	43人	86%	39人	109.8%	6,905,000円	7,582,618円
平均	50人	41人	83.1%	38人	105.8%	6,849,250円	7,250,231円
合計	600人	498人		466人		82,191,000円	87,002,777円

《2017年度事業計画達成状況》

(1) 2017年度における入所者数及び収入面の計画について。

地域居宅ケアマネージャー及び医療施設より施設見学を経て入所判定会議月で平均2~3名の入所者が確保出来た。年間入所者数も前年度を上回る結果となり平均40名をキープ。開設以来、最高44名の入所者数を確保出来た。収入面に於いても安定化が図れた。2018年度に於いても引き続き、関係各所との連携を密に取りながら、地域情勢の把握や共有を図り入所者確保に努めると共に安定した施設運営を継続していく。

(2) 処遇計画に基づく入所者支援について。

個別の生活相談会を実施する中、施設に長年入所されている方は特に未だ集団での活動に対する要望が強く、中々個別での趣味活動意欲が欠けてきている。活動やレクリエーションに参加される入所者も少なく、居室内にて過ごされている方が多い。

又、入所者の要望とは別に施設側も支援の在り方や処遇の見直しも図

れていないのが現状であった。中間施設としての役割を担うのが本来の目的ではあるが、入所者の考えや思いを集約出来ず対応が困難となった現実があり自立した生活や一人一人の方向性の取り組みが実現出来なかった。

一方で在宅復帰を果たした入所者も今年度は2名と言う結果であった。新たに入所された方は、自立されている方は少なく介護サービス利用を必要とされる方、精神疾患を患っている方の入所者が増加した。

外部介護サービス利用を数名の方は実現出来たが、精神的な問題を抱えている方の対応としては、未だ就労支援や在宅復帰の実現が出来ていない。年齢層も他の入所者と違って若い方が多い。

来年度に向けて関係各所とも協議しながら個別支援の方向性に向けて検討を進めていきたい。

(3) 建物の老朽化による改修・修繕工事の実施。

昨年度から取り組みを実施する中で、1つ修繕を行うがその後、次々に改修を行わないといけない状況にある。

災害対策としてガスボンベ式非常用発電機2台購入を図ったと同時に備蓄品の購入を徐々に行ったが、予算等の問題も含め完全に備蓄出来ていない。

来年度は、段階を踏まえ備蓄品の購入を実現していきたい。

(4) 意識向上並びにソフト導入に於ける安定化と健全化。

各種委員会に於いて、発信力や検討事項が少なく専門的な部分の活用が図れていない。意識向上の発展や支援の充実化を図る目的として来年度は各職員委員会の内容を精査し、発言力や次に繋がる話し合いを設け入所者第一に考える在り方や業務中心にならない取り組み方を常に考えサービスの向上に努めていきたい。

PC活用に於いては日々の記録はもちろんの事、各職員が徐々にPC慣れしてきている為、業務効率化の安定を引き続き図る。

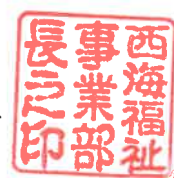
以上

社会福祉法人 福医会
西海福祉事業部 介護福祉課

特別養護老人ホーム さいかい
短期入所生活介護 さいかい

2017年度 事業報告書

2018年 4月16日
作成責任者：介護福祉課 課長代行 川添 大輔



特別養護老人ホーム さいかい2017年（4月から3月）における事業実績

	定員数	実績人数	稼働率	計画人数	達成率	計画額	実績額	待機者数
4月	50人	49.8人	99.60%	49.5人	99.80%	18,948,000円	18,909,806円	15人
5月	50人	49.8人	99.60%	49.5人	101.09%	18,948,000円	19,153,962円	10人
6月	50人	49.7人	99.40%	48.5人	104.42%	18,472,000円	19,288,266円	10人
7月	50人	49.5人	99.00%	49.5人	102.15%	18,948,000円	19,354,910円	7人
8月	50人	48.9人	97.80%	49.0人	90.44%	19,367,000円	17,514,749円	7人
9月	50人	49.3人	98.60%	48.5人	104.03%	18,472,000円	19,216,453円	8人
10月	50人	49.5人	99.00%	48.5人	107.18%	18,472,000円	19,798,991円	9人
11月	50人	49.4人	98.80%	49.0人	101.96%	19,354,000円	19,733,860円	12人
12月	50人	50.0人	100.00%	48.5人	103.06%	18,572,000円	19,140,471円	12人
1月	50人	49.6人	99.20%	49.0人	100.52%	19,358,000円	19,458,921円	15人
2月	50人	49.0人	98.00%	49.0人	89.84%	19,348,000円	17,382,808円	20人
3月	50人	49.6人	99.20%	49.5人	101.62%	18,948,000円	19,255,516円	16人
平均	50人	49.5人	99.02%	49.0人	100.51%	18,933,917円	19,017,393円	12人
合計	600人	594.1人		588.0人		227,207,000円	228,208,713円	

短期入所生活介護 さいかい2017年（4月から3月）における事業実績

	定員数	実績人数	稼働率	計画人数	達成率	計画額	実績額
4月	8人	6.4人	80.00%	7.2人	86.84%	2,636,000円	2,289,225円
5月	8人	6.3人	78.75%	7.5人	85.01%	2,839,000円	2,413,355円
6月	8人	6.5人	81.25%	7.0人	90.39%	2,563,000円	2,316,810円
7月	8人	6.7人	83.75%	7.2人	96.62%	2,637,000円	2,547,985円
8月	8人	6.6人	82.50%	7.2人	94.99%	2,647,000円	2,514,510円
9月	8人	7.0人	87.50%	7.0人	101.40%	2,563,000円	2,598,790円
10月	8人	6.2人	77.50%	7.4人	89.12%	2,801,000円	2,496,155円
11月	8人	6.1人	76.25%	7.2人	87.89%	2,636,000円	2,316,650円
12月	8人	6.3人	78.75%	7.2人	90.75%	2,637,000円	2,393,125円
1月	8人	6.4人	80.00%	7.0人	82.45%	2,574,000円	2,122,235円
2月	8人	6.5人	81.25%	7.2人	93.27%	2,636,000円	2,458,692円
3月	8人	5.7人	71.25%	7.5人	81.51%	2,839,000円	2,314,193円
平均	8人	6.4人	79.90%	7.2人	90.02%	2,667,333円	2,398,477円
合計	96人	76.7人		86.6人		32,008,000円	28,781,725円

《2017年度事業計画達成状況》

(1) 入居待機者の獲得（特養）と利用者の安定化（短期入所）。

特養では、待機者獲得するものの、他施設への入居、長期入院や永眠等での自己都合キャンセルがあり、それが減少の要因となっている。法人合同相談員連携会議を基点に、法人内では本氏ニーズに沿って、各事業所の連携により、入居及び待機者獲得に繋がる。法人外でも、情報発信と収集により、介護支援専門員や民生委員からの紹介等、徐々にではあるが待機者増加へと繋がった。

短期入所では、特養同様、法人合同相談員連携会議を基点に活動し、毎月の定期居宅介護支援事業所訪問だけでなく、西海市内外の病院・診療所への訪問活動や、民生委員の会合への参加を行うも、7日間未満の空室を埋めることが出来ず、計画人数目標達成とは至らなかった。

2018年度は、地域住民への法人内各事業所の理解と浸透を図り、また対象者情報の収集にて、獲得に繋がるよう、訪問活動の在り方を見直し、法人合同相談員連携会議を活性化していく。

(2) 介護人ぎいの確保と育成及び処遇改善。

今年度、一身上の理由による退職者が数名いた。その補充職員は、法人内事業所からの異動者である。また、同様の理由により、法人内他事業所へ異動した職員もあり、人員は減少傾向にある。

有資格者増員については、介護支援専門員資格取得者1名、実務者研修修了者1名、ユニットリーダー資格取得者2名に留まる。介護福祉士資格等のキャリアアップ試験合格者や、喀痰吸引研修や認知症研修等の実務に直結した資格取得者が想定していた人数よりも下回っていた。

業務負担軽減やストレスの低下など、離職防止のための施策として挙げていた、介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の変更申請や、人事考課システムの構築、さらには福利厚生の実施は、2017年度内では、未達成であった。しかし、介護職員処遇改善加算（Ⅰ）の変更申請と福利厚生の実施は、2018年度当初から施行され、人事考課システムは、2019年度実施に向け、2018年度は試行期間と位置付けている。いずれも、管理部との連動により進める。

(3) ユニットケアの推進。

全職員対象のユニットケア研修開催や、ユニットリーダー研修修了者を中心とした、備品・設備やケアの見直し等を押し進めるも、ハード面・ソフト面のシステム基盤が依然未確立。

ユニットケア推進会議内容を改め、本氏の趣味嗜好やADL等を踏まえた居室の設えや、プライベートスペースとパブリックスペース等、状況により生活単位で空間を分離できるよう、ご家族への協力を仰ぐとともに、ユニットケアのさらなる理解と職員意識改革、入居者・利用者目線での環境作りを率先して行う。

(4) 家族会の充実。

今年度は、家族会会員を対象とした、食事会と研修会を開催し、本会の目的の一つである、「会員相互の親睦を図る」ことが具体的に達成できた。大変好評だったため、2018年度も数回企画し、会員の親睦のみならず、施設訪問頻度が増えることにより、入居者の現状把握や、さらなる職員との信頼関係を築いていく。

(5) セミパブリックとしての役割。(短期入所生活介護)

法人内外の人々への活動の場としての提供は、セミパブリックスペースとしての発信が思うように出来なかったこと、ボランティア団体等のイベント開催数が少なかったことにより、セミパブリックスペースとしての役割を果たせていない。

イベント参加者の心身の活性化や、披露の場としての地域貢献、さらには、職員の業務負担軽減にも繋がるため、有効活用できるよう発信力を高め、随時イベントを企画していく。

以上

社会福祉法人 福医会
西海無低診療事業部 さいかいクリニック

2017年度 事業報告書

2018年4月15日
作成責任者：医療保険課 課長 田中泰司



さいかいクリニック 2017 年度事業計画実施報告

① 2017 年度（2017 年 4 月から 2018 年 3 月）における事業実績

(1) 生活保護受給者及び無料低額診療利用患者の受診状況

診療月	クリニック		生活保護受給者		無料低額診療利用		率 (%)
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	
4 月	660	28,757,282	30	623,296	5	13,260	2.2
5 月	680	27,745,148	32	350,830	4	11,800	1.3
6 月	679	30,958,015	65	790,770	3	10,620	2.6
7 月	665	28,318,954	35	416,680	4	10,360	1.5
8 月	680	30,271,323	31	401,070	4	15,690	1.4
9 月	645	28,585,744	26	358,500	4	20,974	1.3
10 月	641	28,328,415	32	525,720	6	282,168	2.9
11 月	730	29,503,891	29	378,400	6	96,470	1.6
12 月	683	27,779,953	33	549,010	6	127,370	2.4
1 月	714	27,050,600	35	411,480	5	41,682	1.7
2 月	721	24,610,257	43	646,550	4	40,464	2.8
3 月	702	26,031,290	29	537,920	5	38,202	2.2
合計	8,200	337,970,872	420	5,990,226	56	709,060	1.9
平均	683	281,161,739	35	499,186	5	59,088	

(2) 外来患者受診状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内	602	648	627	615	616	596	593	622	535	617	586	616	7,273
外	59	82	72	67	82	53	64	55	53	67	64	53	771
眼	114	131	125	194	144	94	119	153	128	105	117	99	1,523
リ	759	795	869	756	673	591	701	685	657	526	530	680	8,222
透	573	601	616	615	648	645	638	640	604	633	544	567	7,273
他	1	2	7	9	2	5	63	232	90	8	4	11	434
計	2,108	2,258	2,316	2,256	2,165	2,025	2,229	2,431	2,108	1,976	1,884	2,054	26,026

(3) 透析科における受診状況（患者 1 人につき 1 件で算出）

診療月	患者	受診数	金額	1 人あたり金額
4 月	49	392	15,523,750	316,811

診療月	患者	受診数	金額	1人あたり金額
5月	49	476	16,979,070	346,512
6月	49	463	16,641,190	339,616
7月	50	455	16,672,010	333,440
8月	48	491	17,811,160	371,066
9月	49	475	17,175,650	350,523
10月	86	530	17,191,310	199,899
11月	59	482	17,213,870	291,761
12月	48	493	17,028,120	354,753
1月	53	392	13,095,870	247,092
2月	48	456	15,387,470	320,572
3月	50	498	17,082,440	341,649
合計	53	467	16,483,493	310,034
平均	53	467	16,483,493	

(4) 年度における収入

診療月	目標	実績	達成率
4月	32,285,000	31,826,614	98.6%
5月	32,285,000	28,674,762	88.8%
6月	32,285,000	36,132,793	111.9%
7月	32,285,000	34,166,089	105.8%
8月	32,285,000	29,292,269	90.7%
9月	32,285,000	29,523,866	91.4%
10月	32,285,000	31,982,247	99.1%
11月	32,285,000	33,720,991	104.4%
12月	32,285,000	30,724,280	95.2%
1月	32,285,000	31,458,702	97.4%
2月	32,285,000	28,501,957	88.3%
3月	32,285,000	27,616,798	85.5%
計	387,420,000	373,621,368	96.4%

② 重点取組項目について

(1) 無料低額診療事業の理解と推進

生活保護受給者と合わせクリニック全患者の1割以上を占める事により実施する事が出来る事業であるが2017年4月から2018年3月までの当該利用率（金額ベース）については患者の状況により院内処方にて無料又は一部低額にて対応したが1.9%と実施基準を充たしていない。

このことから2018年度も重要課題として継続して事業計画を掲げる

民生委員及び地区関係者と連携、法人事業所内における各施設利用者等に活用を推進、診察時の医師からや、受付窓口においても支払いが困難と感じる患者に対し積極的に相談を承りながら当該事業の利用を呼びかけるなど推進を図る。

(2) 個人用透析機の増台と利便性の向上

西海市在住であっても遠方（長崎市や佐世保市）に受診している患者や透析依頼の申し込みを受けている患者を早期に受診につなげるための個人用透析機を2台増台（増台後計28台）する件は待機患者を全て受け入れ出来た為、延期していたが、今後増加する可能性があり体制を整備し増設を再検討する。

(3) 診療報酬請求に係る知識の向上と事務処理の迅速化

診療報酬請求における知識を向上し査定減を減らす件は下期より減少したものの不十分であった。2018年度は定期的に検討会を開催し引き続き強化する。

- ・社内にて毎月審査内容について医師と伝達講習会を実施しており、診療報酬請求に係る保険診療ルール（基礎知識）の向上を図る。
- ・毎日、医師の協力体制にて病名等のチェックを行い保険請求に伴う査定減を見込む
- ・請求支払額の適切な管理を行い、請求もれ及び過誤請求に伴う未収金等の発生の防止に努める。

(4) チーム医療の推進

「医療スタッフ協働・連携によるチーム医療の推進」については、実際に画像診断に係る読影の補助を行い医師と医療スタッフの連携が向上した。

2018年度は腹部・心エコーの研修会参加や院内勉強会を行い、検査技師による心エコー検査の実施を目指す。

(5) 安全で快適な医療の提供

クリニック内における施設環境、医療機器及びその関係機器等について、日常点検（目視、異音の聴取、清掃）を行い、異常時には修理を敏速に行う事が出来た。

2018年度は、故障が生じた場合を想定し、財源を確保して修繕・補修・購入等対処するよう備える。

(6) 地域への貢献

2018年7月より院長職内科医を招聘し好評を頂いている。

また、毎朝院内で健康教室を実施し地域の予防医学に寄与していると考ええる。

地域主催の健康教室等での医学的指導又は会合等へ積極的に出席する旨計画しており、日程調整の上実施する。

(7) 休診時における検査体制

クリニック休診時等においても最低限の検査が実施できるように、看護師を対象に当該検査等に伴う使用医療機器に係る補助操作訓練を行い検査体制は出来ているが、継続的に訓練を行う。

(8) 看護職員における連携強化

病棟、外来の看護師については固定配備を廃止し協調性を重視した組織体制の構築と業務の効率化を図ってきたが、退職者が出た事により業務負担が生じた。

人材確保を行い、病棟と外来の一貫した連携体制は維持したい。

更に今後は透析室所属看護師ともフォロー出来る様、お互いの業務を習得する。

(9) 検査業務の安全性と正確性の推進

作業マニュアルを作成し、検査の標準化・効率化を図るとともに事故防止する件は未完成であるがまずは、2018年度重要課題である心エコー検査を中心に作成する。

(10) 経費削減及び業務の効率化に係る取組み

ア 医薬品等の在庫管理

在庫管理ソフトを活用し、毎月棚卸を実施し、理論在庫との差異を無くし適切な在庫管理を行う事が出来た。

2018年度の診療報酬改定の薬価改定に伴い、競争入札を実施し納入率の引き下げを行う。

イ 人件費

2017年度内に退職者は発生した事により事業所内の人件費の占める割合を55%以下となる50%となった。

2018年度は看護師の人材確保を行った上で外来・病棟・訪問看護へ適正かつ効率的に配置したい。

ウ 診療費

2017年度は、「窓口入金現金出納帳」や「請求額決定書」は毎月作成するも「支払額決定書」については知識の不足により適切に管理出来ず課題となった。

2018年度は研修、研鑽の上、確実に履行するものとする。

(11) 訪問看護

増加する在宅医療のニーズに応えるために、受入体制は準備し看護師の訪問看護専門の研修会にも参加させる等積極的であったが人材不足に直面し実施出来なかった。

2018年度は看護師の確保を行い実績作り致したい。

社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 介護保険課

介護療養型老人保健施設 さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部長 中尾 祐二



1 2017年度（4月から3月）における事業実績

定量目標	常時 38.0 以上の入所者数維持（稼働率 92.5%） 平均介護度 3.0				
	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	1,140	1,161	14,889,349	15,399,301	103.4%
5月	1,178	1,172	15,736,662	16,317,314	103.7%
6月	1,140	1,170	14,889,349	15,684,021	105.3%
7月	1,178	1,161	15,736,662	18,130,012	115.2%
8月	1,178	1,197	15,736,662	16,940,756	107.7%
9月	1,140	1,169	14,889,349	16,271,232	109.3%
10月	1,178	1,223	15,736,662	17,872,063	113.6%
11月	1,140	1,183	14,889,349	17,257,353	115.9%
12月	1,178	1,218	15,736,662	17,134,005	108.9%
1月	1,178	1,206	16,133,076	17,087,631	105.9%
2月	1,064	1,080	14,185,303	14,960,591	105.9%
3月	1,178	1,175	16,133,076	16,250,832	100.7%
合計	13,870	14,115	188,208,739	199,305,111	105.9%
平均	1,156	1,176	15,684,062	16,608,759	105.9%

2017年度については、人数及び金額とも年間を通して目標達成となった。前年度においても目標達成の運営を行っていることから、2018年度以降についても過去2か年同様の運営を継続し、事業の更なる安定化に繋げる。

2 生活保護受給者及び無料低額診療利用患者の受診状況

提供月	老健		生活保護・無料低額利用		率(%)
	件数	金額	件数	金額	
4月	1,161	15,399,301	60	813,020	5.0
5月	1,172	16,317,314	63	1,038,434	6.3
6月	1,170	15,684,021	60	813,020	5.2
7月	1,161	18,130,012	63	1,008,961	5.5
8月	1,197	16,940,756	62	839,990	5.0
9月	1,169	16,271,232	60	813,344	5.0
10月	1,223	17,872,063	93	950,681	5.3
11月	1,183	17,257,353	129	1,013,733	5.9
12月	1,223	17,134,005	155	1,097,509	6.4
1月	1,206	17,087,631	149	1,076,867	6.2

提供月	老健		生活保護・無料低額利用		率(%)
	件数	金額	件数	金額	
2月	1,080	14,960,591	112	916,604	6.1
3月	1,175	16,250,832	149	1,076,867	8.5
合計	14,115	199,305,111	1,155	11,459,030	5.8
平均	1,176	16,608,759	96	954,920	

3 重点項目に係る取組方法等

(1) 効果的なりハビリテーションの実施

「できること」と「していること」の差をなくすことを目標に、利用者一人ひとりを正確に評価した訓練・生活リハビリテーションの立案を図り実施した。

(2) 利用者の安定確保

前年度同様に、地域連携室及び居宅介護支援事業所と随時連携を図り新規利用者を獲得するなど利用者の安定確保が図れた。

(3) 在宅復帰への取組み

35%の在宅復帰率となり目標の20%を達成した。利用継続判定会議を定期的に開催し、医学的管理やリハビリの必要性等について十分検討の上、利用者本人及び家族に提案し調整が図れた。

(4) 定期的なレクリエーションの実施

短時間の実施に留まっていたレクリエーションについて、他事業所職員と協力し定期的に実施した。

(5) 褥瘡予防対策への取組み

予防対策に係るマニュアル作成を行い看護職員及び介護職員に周知することができた。また、褥瘡予防のための計画、リスクアセスメント及びその結果に基づく措置の実施に取り組んだ。

(6) 重度化への対応

入所時のアセスメントを強化し、現病歴、既往症により予想される病態など正確な把握ができるように入所時サマリーの充実を図った。また、研修会等には積極的に参加し知識向上と情報共有に努めた。なお、医療機器等については、点検・整備を日常業務として実施し重症化の未然防止に努めた。

(7) 職員の意識向上及び教育計画

事故、ヒヤリハットに対する職員の意識強化と周知徹底を図り、職員一人ひとりが自発的に事故リスクを関知し、予防またはケアできる能力を有するように、運営会議、各種委員会、内部・外部研修及びこれらの伝達講習会の充実を図った。一方、法人開催のステップ研修への参加がされていない状況

であることから、2018 年度においては当該研修に積極的に参加しスキル向上に取り組んでいく。

(8) 施設環境等の整備

利用者の安全確保及びスムーズな受け入れが行われるように 2018 年度において環境整備を行うことを決定した。なお、天災等の緊急事態時における役割分担、連絡・連携・協力体制等をより明確化し不足の事態に備えることとする。

(9) 人材の確保及事務分掌の明確化

配置基準及び運用上の必要人員を加味し、西海管理部の人材確保計画に共同連携し人材確保に努めてきたが、入職間もない介護職員の早期離職が目立った。

(10) 無料低額事業の周知・推進

当該事業における対象者を 10%以上確保するために、規程の見直しを行ってきたが生活保護受給者の割合も低かったため 5.8%に留まった。本年度も引き続き 10%超を目標に推進を図っていく。

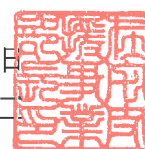
社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 在宅支援課

デイケア さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部長 中尾 祐二



デイケアさいかい

2017年度（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画延 人数	実績延 人数	差異	年次計画金額	実績金額	差異	計画達成 率
4月	477	473	-4	¥4,200,000	¥4,098,044	-¥101,956	97.6%
5月	477	524	47	¥4,200,000	¥4,665,131	¥465,131	111.1%
6月	477	502	25	¥4,200,000	¥4,472,423	¥272,423	106.5%
7月	581	479	-102	¥5,100,000	¥4,246,615	-¥853,385	83.3%
8月	581	475	-106	¥5,100,000	¥3,760,393	-¥1,339,607	73.7%
9月	581	475	-106	¥5,100,000	¥4,207,020	-¥892,980	82.5%
10月	581	497	-84	¥5,100,000	¥4,712,347	-¥387,653	92.4%
11月	581	468	-113	¥5,100,000	¥4,322,361	-¥777,639	84.8%
12月	581	510	-71	¥5,100,000	¥4,559,479	-¥540,521	89.4%
1月	581	450	-131	¥5,100,000	¥4,180,736	-¥919,264	82.0%
2月	581	414	-167	¥5,100,000	¥3,710,601	-¥1,389,399	72.8%
3月	581	534	-47	¥5,100,000	¥5,102,357	¥2,357	87.2%
合計	6,660	5,801	-859	¥58,500,000	¥52,037,507	-¥6,462,493	87.8%

《2017年度重点項目に係る取り組み》

1 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの信頼関係構築と連携強化

2 新規利用者の獲得。収入の安定

目標達成にはおよばなかったが、関係機関と連絡を密に行い、新規利用者の獲得につながりつつなる状況。本年度も引き続き情報収集にあたり目標達成と収入面の向上に繋げる。

また、職員については、年間を通して売り上げを意識させるよう取り組んだ。

3 職員のスキル向上、サービスの質の向上

地域の研修会やケア会議等に参加し、情報収集や知識の習得に取り組んだ。また、サービスの質の向上と業務の効率化を図るために積極的に法人内別事業所の応援業務に出向いた。一方、法人におけるステップ研修への参加がされていない状況であることから、2018年度においては当該研修への積極的な参加と開催を行っていく。

4 各種委員会及び会議の実施

全職員で議事進行や記録担当を持ち回りで実施し、スキル向上に取り組んだ。

5 NDソフトウェア（ほのぼの）の活用

本年1月に操作訓練を実施し、移行期間を経過した4月1日からシステムを活用した運用に完全移行した。本年度も引き続きIT化を推奨し、経費削減及び更なる効率化に取り組んでいく。

以上

社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 在宅支援課

居宅介護支援事業所 さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部長 中尾 祐二



居宅介護支援事業所 さいかい

2017年度（4月から3月）における事業実績（計対比）

	計画人数	実績人数	計画額	実績額	計画達成率
4月	21	14	211,000	148,990	70.6%
5月	21	14	211,000	161,850	76.7%
6月	21	16	211,000	180,250	85.4%
7月	21	17	200,000	202,875	101.4%
8月	22	16	211,000	182,050	86.3%
9月	22	17	211,000	196,780	93.3%
10月	23	14	214,000	162,520	75.9%
11月	24	17	225,000	209,000	92.9%
12月	24	21	225,000	250,680	111.4%
1月	25	23	235,000	254,990	108.5%
2月	26	23	246,000	268,520	109.2%
3月	26	24	246,000	283,360	115.2%
合計	276	216	2,646,000	2,501,865	94.6%

《2017年度重点項目に係る取り組み》

管理職において、職員のスキルアップより、質の向上に重きを置き1年間取り組んできた。年度後半、職員の入職に伴い、当該新規職員を中心に事業運営をおこなった。計画達成には至らなかったが、年度末において、計画達成の実績に繋がってきた。

本年度も関係機関との信頼関係を再構築し、安定した事業運営にあたるよう、引き続き利用者の安定確保に繋げていく。

以上

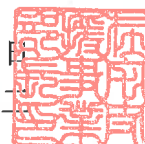
社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 在宅支援課

訪問リハビリテーション さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部 中尾 祐二



訪問リハビリテーション さいかい

2017年度（4月から3月）における事業実績（計対比）

	年次計画金額	実績金額	差異	計画達成率
4月	721,000	603,958	-117,042	83.8%
5月	709,000	709,680	680	100.1%
6月	721,000	630,832	-90,168	87.5%
7月	721,000	489,922	-231,078	68.0%
8月	721,000	493,316	-227,684	68.4%
9月	733,000	537,978	-195,022	73.4%
10月	733,000	628,632	-104,368	85.8%
11月	721,000	608,072	-112,928	84.3%
12月	745,000	656,716	-88,284	88.1%
1月	733,000	477,292	-255,708	65.1%
2月	745,000	468,258	-276,742	62.9%
3月	757,000	666,300	-90,700	88.0%
合計	8,760,000	6,970,956	-1,789,044	79.6%

《2017年度重点項目に係る取り組み》

- 1 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの信頼関係構築と連携強化

- 2 新規利用者の獲得。収入の安定

連絡を密に行った結果、新規利用者の獲得につながってきた。本年度も引き続き情報収集にあたり収入面の向上に繋げる。また、島リハについては、利用者が減少傾向にあることから、行政に要望を出すなど行っている。

また、職員については、年間を通して売り上げを意識させるよう取り組んだ。

- 3 職員のスキル向上、サービスの質の向上

地域の研修会やケア会議等に出席し情報収集や知識の習得に取り組んだ。また、サービスの質の向上と業務の効率化を図るために積極的に別事業所の応援業務に出向いた。

- 4 各種委員会及び会議の実施

全職員で議事進行や記録担当を持ち回りで実施し、スキル向上に取り組んだ。

以上

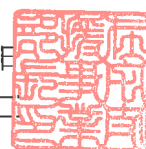
社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 在宅支援課

訪問介護 さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部長 中尾 祐二



訪問介護 さいかい

2017年度（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画稼働数	実績延人数	差異	年次計画金額	実績金額	差異	計画達成率
4月	330	345	15	1,364,000	1,146,070	-217,930	84.0%
5月	330	357	27	1,364,000	1,177,185	-186,815	86.3%
6月	330	343	13	1,364,000	1,125,157	-238,843	82.5%
7月	340	343	3	1,405,000	1,158,260	-246,740	82.4%
8月	340	344	4	1,405,000	1,156,673	-248,327	82.3%
9月	340	263	-77	1,405,000	854,722	-550,278	60.8%
10月	345	205	-140	1,426,000	743,414	-682,586	52.1%
11月	345	195	-150	1,426,000	661,909	-764,091	46.4%
12月	350	220	-130	1,447,000	805,553	-641,447	55.7%
1月	350	244	-106	1,447,000	845,299	-601,701	58.4%
2月	350	233	-117	1,447,000	885,056	-561,944	61.2%
3月	350	225	-125	1,447,000	906,406	-540,594	62.6%
合計	4,100	3,317	-783	16,947,000	11,465,704	-5,481,296	67.7%

《2017年度重点項目に係る取り組み》

- 1 居宅介護支援事業所、地域包括支援センターとの信頼関係構築と連携強化
- 2 新規利用者の獲得。収入の安定
 連絡を密にし、新規利用者の獲得につながってきた。本年度も引き続き情報収集にあたり収入面の向上に繋げる。
 また、職員については、年間を通して売り上げを意識させるよう取り組んだ。
- 3 職員のスキル向上、サービスの質の向上
 地域の研修会やケア会議等に参加し情報収集や知識の習得に取り組んだ。また、サービスの質の向上と業務の効率化を図るために積極的に別事業所の応援業務に出向いた。一方、法人開催のステップ研修への参加がされていない状況であることから、2018年度においては当該研修に積極的に参加しスキル向上に取り組んでいく。

4 各種委員会及び会議の実施

全職員で議事進行や記録担当を持ち回りで実施し、スキル向上に取り組んだ。

5 NDソフトウェア（ほのぼの）の活用

本年1月に操作訓練を実施し、移行期間を経過した4月1日からシステムを活用した運用に完全移行した。本年度も引き続きIT化を推奨し、経費削減及び更なる効率化に取り組んでいく。

以上

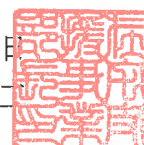
社会福祉法人 福医会
西海在宅支援事業部 在宅支援課

デイサービス さいかい

2017年度 事業報告書

2018年5月18日

作成責任者：在宅支援事業部長 中尾 祐二



デイサービスさいかい

2017年度（4月から3月）における事業実績（計画対比）

	計画延 人数	実績延 人数	差異	年次計画金 額	実績金額	差異	計画達成 率
4月							
5月							
6月							
7月	210	18	-192	2,200,429	141,920	-2,058,509	6.4%
8月	210	19	-191	2,200,429	225,430	-1,974,999	10.2%
9月	210	20	-190	2,200,429	222,680	-1,977,749	10.1%
10月	210	22	-188	2,200,429	203,610	-1,996,819	9.3%
11月	210	42	-168	2,200,429	329,211	-1,871,218	15.0%
12月	210	65	-145	2,200,429	479,406	-1,721,023	21.8%
1月	210	58	-152	2,200,429	447,480	-1,752,949	20.3%
2月	210	54	-156	2,200,429	583,856	-1,616,573	26.5%
3月	210	66	-144	2,200,429	597,180	-1,603,249	27.1%
合計	1,890	364	-1,526	19,803,861	3,230,773	-16,573,088	16.3%

《2017年度重点項目に係る取り組み》

1 施設環境の整備

現状での環境整備は整えることができたが、今後、利用者の増加にあわせて安全確保及びスムーズな受け入れるための整備については、利用者の増加にあわせて増築等の検討が必要となってくる。

2 人材の確保及び事務分掌の明確化

管理部及び学校へのアプローチを行い人ざい確保に努めた。学校からの紹介及び実務者研修時のために施設提供を行った。なお、各学校等については、間隔があいても3か月以内に再度訪問又は連絡等を行い情報の提供等を行った。

3 利用者の安定的確保と介護保険改定に向けた柔軟な対応

居宅支援事業所と連携をとり、特に小迎地区在住の利用者獲得に積極的に取り組んだ。

4 効果的なレクリエーションの実施

レクリエーションについては、効果的な実施に至っていない。現場目線の

画一的なレクリエーションの実施に留まってしまった。

5 認知症利用者へのアプローチ

包括センター等と連携を取り合いながら、年度内において認知症の方の利用獲得を行った。本年度も更に利用者獲得に取り組んでいく。

以上